

青雲

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。

15号 2013.2

発行人 / 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義氏



えにし
『縁』

出雲の神様といえば大国主大神、“縁結びの神様”といいますがこの縁結びは、単に男女の仲を結ぶことだけでなく、人間が立派に成長するように、社会が明るく楽しいものであるように、すべてのものが幸福であるようにと、お互いの生成の為つながりが結ばれる縁もあるのではないかと思います。

我々が縁を大切に一致団結し、縁=絆の和を広げて行きながら青年部会らしい行動と自らの力で未来を切り開いて行こうではありませんか!!

優れた想像力と逞しき意志、勇気と燃える情熱を持って!!

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

15号 2013

contents

- ◆巻頭言／「今動くとき！」
一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会①②
部会長 梶野直宏
- ◆出雲地区管内防災マップ③～⑥
一般社団法人島根県出雲地区建設業協会(青年部会) 会員名簿
地域の安全・安心を守る!!
災害発生時の事例
- ◆平成24年度卒業生より一言⑦
久文建設(株) 嘉戸 務
(株)山本工務店 花田 泰久
- ◆平成24年度新入会員紹介⑧
(株)小畑建設 小畑 健治
(株)日本海建設 青砥 正人
山口建設(株) 安部 希芳
- ◆平成24年度事業報告
＜地域貢献事業報告＞
2012海岸清掃⑨
地域貢献委員会 委員
内藤建設工業(株) 内藤 祐馬
＜経営研究事業報告＞
「これからの公共工事について考える」研修会⑩
経営研究委員会 副委員長
(有)川角建設 川角 宣広
＜創立15周年記念事業報告＞
研修視察に参加して⑪
会員交流委員会 委員
岩崎建設(有) 岩崎 利行
祝賀会を終えて⑫
会員交流委員会 委員長
(株)今岡興産 内藤 圭司
親睦ゴルフコンペに参加して⑬
総務広報委員会 委員
(株)内藤組 内藤 正和
- ◆初代部会長からのメッセージ⑭
「きゃりーぱみゅぱみゅのこころだ～」
(株)山本工務店 山本 恭則
- ◆編集後記 ＜総務広報委員会 委員長 山崎 育男＞⑮

今動くとき！

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 梶野直宏



平成24年暮れに政権が交代し、新年を迎えました。政権交代に伴って、株価は上昇しさらに円安が進み、少しずつ経済活動が活発となり景気が良くなるような兆しが見えてきています。そして、耐震や維持管理、補修などの公共工事も補正予算に組み込まれ、業界にとっても多少期待が出来る年になるのではないのでしょうか。

さて私たち一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会は、平成24年度で創立15周年を迎えることが出来ました。これも偏に、親会をはじめ先輩諸兄や関係者の皆様のご指導あってこそだと思えます。改めて皆様に心より感謝申し上げます。さて青年部会の設立趣意書の中に、このような件があります。『我々若き「建設人」は、この混迷する難局に立ち向かっていかねばならない。～各地域が直面する多様な諸問題に対し、すべての会員が連携を密にして同じ視点で共に乗り越えて行くことを目的とする』とあります。今私たち業界にとっては、数年にわたる大幅な公共工事の削減、ダンピング入札契約や労務単価の低下による労働環境の悪化、雇用力の低下など様々な諸問題が山積しています。さらに若手技術者の不足も深刻化しています。また東日本大震災や異常気象など想定外の災害が発生し、安全・安心な生活が脅かされている状況です。しかし設立趣意書にあるように、若き建設人として、この厳しい諸問題を乗り越えて行かなくてはなりません。そこで、私たち青年部会は動きます。

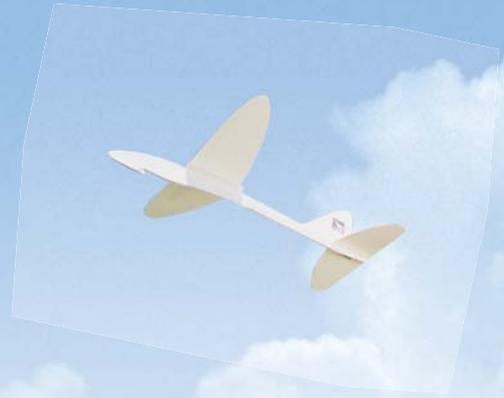
動く！

建設業は「地域の安全・安心を守る」使命があると思えます。そこで、今回創立15周年にあたり、出雲地区管内の防災マップを作成し、親会である一般社団法人島根県出雲地区建設業協会と出雲県土整備事務所へ贈呈しました。現在、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会では92社（青年部会35社）の会員を擁し、各会員がそれぞれの地域を担当しています。この防災マップは、出雲管内の防災重点地区と各会員の位置を一覧にしています。是非、改めてそれぞれの位置を確認頂き、今後の防災活動等で利用頂ければ幸いです。

最後に、青年部会は今後も諸問題解決に向けて動きます。そして、建設業の発展の為に努力して参ります。今後も何卒よろしくお願い致します。



平成25年1月 出雲県土整備事務所長室にて、役員一同で防災マップを贈呈



所長室に飾っていただきました。
(左側：黒田所長 右側：陸浦業務部長)

設立趣意書

戦後半世紀が過ぎ、我が国は世界でも冠たる驚異的な復興と発展を成し遂げた。そこには先人の永々とした努力と筆致し難い血と汗と涙の歴史が存在することを決して忘れてはならない。

その我が国の発展の中で、取り分け建設業は基幹産業として国内のあらゆる範疇における基盤整備の一翼を担ってきた。殊に、我々地方の中小建設業者が果たした役割はその根幹を成すといっても過言ではないものと自負する。

しかしながら、言うまでもなく現在我々は、曾てないほどの幾多の困難に直面している。今、21世紀の扉を目前に控え、新世紀を担うべき我々若き「建設人」は、この混迷する難局に立ち向かっていかねばならない。

我々は、先人の足跡に甘んずることなく新世紀の扉を自ら押し開くべく、この神々の里に青年部会を発足させるものである。そして、各地域が直面する多様な諸問題に対し、すべての会員が連携を密にして同じ視点で共に乗り越えて行くことを目的とする。

ここに、この趣意書を檄とし、設立に当たっての礎とする。

平成9年7月発足

※黒田所長よりコメント

このたびは出雲地区管内防災マップを寄贈いただき、ありがとうございました。

マップは所長室に掲げ、危機管理業務に大いに利用させていただきます。会員の皆様の所在地が一目でわかり、たいへん心強く感じております。

今後も県の土木行政にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



出雲地区管内 防災マップ

当協会では災害発生時に際し島根県と災害協定を平成18年4月より結んでおります。

建設業の社会での役割の1つに県民の皆様が安全・安心して暮らせる防災対策・災害時の応急対策活動があります。インフラ整備が遅れている本県において生活道路の寸断や水害時の堤防決壊が命に係わる場合も考えられます。我々青年部会会員一同は県民の生命と財産を守るべく日々研鑽をすると共に、各関係行政機関及び出雲地区建設業協会と連携し迅速に有事に対応できる体制を整えています。

凡例

- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 土石流危険渓流・氾濫区域

丸数字は右ページ会社の位置です

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会 92 社

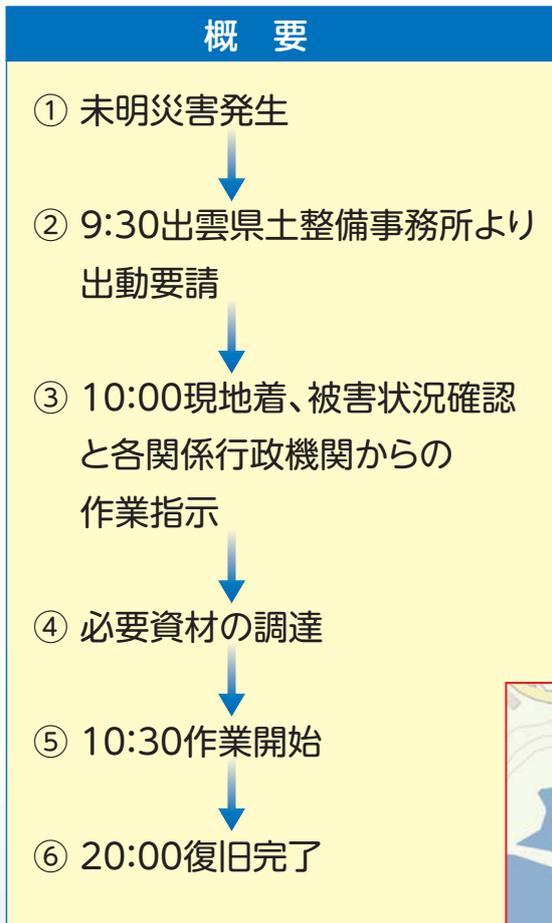
(青の白抜き 青年部会 35 社)

(出雲地区 42)		33	(株) 中村組	65	(株) 土井豆組
1	(有) 青木組	34	(株) 浜村建設	66	(株) 三原組
2	出雲グリーン(株)	35	(有) 原組	67	(有) 和田建設
3	出雲グリーン工業(株)	36	ヒロシ(株)	(大社地区 10)	
4	出雲土建(株)	37	ミシマ産業(株)	68	岩成工業(株)
5	(株) 板倉重機	38	(株) 御船組	69	(有) 川角建設
6	今岡工業(株)	39	(有) 森山組	70	(有) 金築組
7	(株) 今岡興産	40	(有) 山崎組	71	(有) 神門組
8	今岡工務店	41	山本工業(株)	72	島建コンサルタント(株)
9	岩崎建設(有)	42	吉田建設工業(株)	73	(有) 間壁組
10	(株) 内村電機工務店	(平田地区 17)		74	(有) 丸嘉土建
11	(株) 小畑建設	43	岩成建設(有)	75	(有) ミハラ
12	(株) 神田工業	44	(有) 梶谷建設	76	(株) もりやま
13	(有) 北山土建	45	(株) 倉橋工務店	77	吉田建設(株)
14	久文建設(株)	46	(有) 河原建設	(湖陵地区 2)	
15	クサ力建設(株)	47	昭和開発工業(株)	78	(株) 日本海建設
16	木次組	48	(有) 南場工務店	79	やたま建設(株)
17	(株) 小林建設	49	(有) 西尾組	(多伎地区 3)	
18	(株) 佐藤組	50	錦建設	80	(有) ナギラ建工
19	(株) 佐藤工務店	51	(株) 日野組	81	(株) 安井組
20	山陰建設工業(株)	52	(有) 平井組	82	(株) 山下工務所
21	(株) シンコー工業	53	(有) 丸共工務所	(斐川地区 10)	
22	須山建設(有)	54	山口建設(株)	83	(有) 池田組
23	(株) 園山組	55	(株) 山崎組	84	(有) 伊藤工事
24	(株) ダイ二	56	(有) 山下組	85	(株) コスモ建設コンサルタント
25	大福工業(株)	57	(有) 山根建設	86	(有) 坂田土建
26	大和建設(株)	58	(株) 山本工務店	87	(有) 須田工務店
27	中国道路整備(株) 出雲営業所	59	(有) 米江組	88	(有) 斐川建設
		(佐田地区 8)		89	ヒカワ工業(株)
28	(株) トガノ建設	60	(株) 新井建設	90	(株) フクダ
29	(株) 内藤組	61	(株) 井口組	91	(有) 藤木組
30	内藤建設工業(株)	62	(株) 岩崎建設	92	(有) 三加茂組
31	(株) ナカサン	63	(有) 佐々木組		
32	(株) 中筋組	64	(株) 佐田建設		

地域の安全・安心を守る!! 【災害発生時の事例】

ここでは青年部会所属の会員が災害発生時において出動・対応した事例を紹介いたします。
 地域の安全・安心活動を、ご認識頂ければ幸いです。
 今後もインフラ整備はもちろん、地域の安全・安心を守って参ります。

平成22年10月9日大社日御碕線の急傾斜崩落対策



出動状況

人員	オペレーター	1人
	作業員	5人
	ガードマン	2人
.....		
資機材	バックホウ	1台
	ダンプ	2台
	土のう袋	30袋
	投光機	2台
	信号機	2台



未明 災害発生（生活道路の寸断）



10:30 作業開始（落石した石を重機で撤去）



17:50 日が暮れる中、投光機の光をたよりに土のう作製・設置、防護柵設置作業



20:00 復旧完了

生活道路を確保（復旧完了状況）



卒業にあたり

久文建設(株) 嘉 戸 務



平成 20 年度に青年部会に入会させていただき、早 5 年。いよいよ卒業の時を迎えることになりました。振り返ると思い出されるのは夏の海岸清掃です。浜辺に打ち上げられた多くのゴミ、不法に放置されているゴミ・・・あれほどのゴミが浜辺に落ちているとは当初思いもしませんでした。灼熱の太陽が照りつける中での作業は容易ではありませんでしたが、会員の皆さんと一致団結して取り組めた作業では、普段の仕事では得ることのできない充実感と連帯感、また、清掃活動を通じて日常生活で見落としがちな「大切なもの」を思い出させてもらいました。こうやって微力ながらも社会貢献ができるということは普段の生活ではなかなかできないことです。とても良い機会を与えてもらい感謝しております。もちろん、その後の疲れを癒す慰労会も良い思い出です。

この青年部会を通してお世話になった会員の皆様、そして事務局の皆様、今まで様々な体験をさせて頂き、誠にありがとうございました。今後はこの会での貴重な経験を活かし、これまでいただいたご縁を大切に、日々の業務を頑張っていきたいと思っております。最後になりましたが、今後の青年部会のより一層のご発展をお祈り申し上げます。

(株)山本工務店 花 田 泰 久



早いもので平成 20 年度に青年部会に入会させて頂いてから 5 年の歳月が過ぎ、いよいよ卒業の時を迎えることとなりました。

大げさかもしれませんが、入会当初、先輩方は私よりも年下の方々が多いのに驚くと共に、若い視点から建設業の未来の為に必要なエネルギー的な企画や活動に取り組んでおられる姿にとっても感銘し、自分もその一員になれたことを誇りに思っていました。

振り返って見ますと、建設業界に入ってまだまだ未熟な私に絶妙なタイミングでお誘いを受け入会し、何も判らないまま色々な経験をさせて頂きました。私は、総務広報委員・会員交流委員と私に最も相応しい会？に所属し、微力ながら運営のお手伝いをさせて頂いたことが非常に良い経験となりました。また、ふるさとまるごとクリーンアップ作戦、様々な講習会や経営研修会、親善野球交流試合などの活動に参加させて頂いていくうちに、入会していなければ知り合うことの無かった会社（特に他地域）の方々との情報交換と併せて酒を酌み交わしながら語り合うことが出来たことにもとても感謝しています。

長いようで短い 5 年の間に大変中身の濃いお付き合いをさせて頂き本会の卒業を迎えますが、皆さんとおの付き合いは、まだまだこれからだと思っています。昨今の厳しい状況の中『地域に根付いた建設業』を目指す青年部会のおかげで築くことが出来た人と人の繋がりや経験を大切に、これからの成長の『糧』としていきますので、今後とも宜しく願いいたします。

最後に、諸先輩及び会員の方々、また事務局の皆様には本当にお世話になりました。青年部会の今後益々のご発展と会員の方々のご活躍をお祈りいたします。

本当にありがとうございました。

新入会員紹介



(株)小畑建設 小畑 健 治

今年度から青年部会に入会させていただき約1年が経ちました。自社へ入社して約5年、現場での作業が主な為思うように青年部会の事業に参加できていませんが、その中でも諸先輩方と共に活動を行いました。今年度は周年事業も有りましたので卒業生の方々とも交流を深め多くの事を学ぶことが出来たのは入会させていただいたからであると感謝致しております。

今後も、建設業関係に関する知識の習得・地盤である出雲市への地域貢献活動など、少しでも自身の成長・地域の発展に繋がるように微力ながら努力していく覚悟ですので、何卒、宜しくお願いいたします。



(株)日本海建設 青 砥 正 人

この業界に身を置いて約20年、経営者になり5年が経ちました。そして今年度から青年部会に入会させていただき、沢山の先輩方と出会う機会をいただき感謝いたします。

青年部会創立15周年の祝賀会ではOBの方々と御一緒に楽しい時間を過ごす事が出来ました。また、県土整備事務所の方との意見交換会の時は貴重な話を伺う事ができ大変勉強になりました。

これからも青年部会ならではの色々な活動、研修に参加し勉強させて頂いて沢山のひとと縁を持つ事が出来るように頑張りたいと思います。

先輩方にはご迷惑をおかけすると思いますがどうぞ宜しくお願いします。



山口建設(株) 安 部 希 芳

今年度より、青年部会に入会させて頂きました、山口建設株式会社の安部希芳と申します。

大学卒業後、新卒で弊社に入社いたしました。その後1年間現場に従事し、現在の営業職に就きました。営業職に就いた当時には、紙入札だった為、他業者の方とお会いする機会も多々ありましたが、電子入札に変わりその機会も減ってしまいました。この度青年部会に入会させて頂くことになり、このご縁を活かして色々なことを諸先輩方から学ばせて頂きたいと思っております。

まだまだ至らない点等多々あるかと思っておりますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

地域貢献事業報告

2012 海岸清掃

地域貢献委員会 委員
内藤建設工業(株) 内藤 祐馬



今年も地域貢献活動の一環として平成24年7月19日にクリーンアップ作戦を湊原海岸で実施しました。

この海岸清掃には出雲県土整備事務所より黒田所長を始め10名のご参加を頂き、共に島根の美化活動に汗を流しました。

「神話博しまね」の開催を2日後に控え、多くの来県者が訪れる事が予想されており、梶野部会長の挨拶でも『来県者に対する「おもてなしの心」を持って美化に全力を尽くそう。』との言葉に志気を高め作業を開始しました。

海岸のゴミを拾い集めていくという単純な作業ではありますが、空き缶・ペットボトル・海外からの漂着物等々数多くのゴミを目の当たりにし、時間内で本当に終わるのだろうか？一日作業になるのではないかと誰もが不安になりましたが、一昨年、昨年と海岸清掃を実施した経験を活かすと共に、参加者一同一致団結し効率よくゴミを回収・分別を行い時間内に作業を終える事が出来ました。最後に湊原海岸を見渡した時、来県者・地域の方々が見てもこの海岸の美しさは必ず分かって頂けるものであると感じたと共に、改めてボランティア活動の重要性を実感させられました。今回は来県者の方々への「おもてなしの心」を持って挑んだ事業となりましたが、今後島根県が観光都市を目指すならばこの取り組みは重要であり、更に多くの場所で清掃に取り組まれる事が望まれるのではないのでしょうか。この小さな輪（おもてなしの心）が大きな広がりを見せた時、この地域の更なる発展がそこにあると感じることができました。

海岸清掃内容

場 所	大社町湊原海岸	
参加者	青年部会会員	35名
	出雲県土整備事務所	10名
	オーケーリース(株)	1名
	(株)原 商	1名
	(株)リョーキ	1名
	(総勢 48名)	
収集車	4トンダンプ	5台
ゴミの量	1,260キログラム	



こんなにゴミが！！



きれいになりましたよ！

経営研究事業報告

「これからの公共工事について考える」研修会

経営研究委員会 副委員長
 (有)川角建設 川 角 宣 広



平成24年9月21日（金）、午後4時より出雲建設会館において、青年部会経営研究委員会主催による研修会を開催、青年部会会員28名が参加しました。講師として出雲県土整備事務所より、2名の幹部の方をお招きしました。

始めに『検査一般について』の演題により、技術専門監 岩田宏二様に講演して頂きました。過去2年間に竣工した工事の成績評定結果を工種・請負金額毎にまとめた表及びグラフを基に、工事毎の管理の方法や施工するにあたっての注意点について説明がありました。更に竣工検査を受けるにあたっての留意事項等とても解りやすい解説でした。

続いて『公共建物の整備について』の演題で、建築部長 糸川守人様に講演して頂きました。公共建物を整備していく上で重要なことは、監督員と施工業者が建物を利用する側の目線に立って利便性や安全性の向上を図る協議をしっかりと行うことであり、これからもよりよい公共建物を整備していきたいとのお話を伺うことができました。

研修会終了後、場所を移して意見交換会を開催しました。出雲県土整備事務所からは、講師のお二方をはじめ12名の幹部職員の方に参加して頂き、我々が普段思っている疑問や質問を直接訊くことができ、有意義な語らいの場となりました。

今回の研修会は、私自身現場を担当し、竣工検査を受ける立場にあることから、大変興味深い研修会となりました。また総合評価方式の入札の拡大により、工事成績評定点は重要なポイントとなっており、評点アップに繋がる研修会になったと思います。



講師 糸川建築部長



講師 岩田技術専門監

創立15周年記念事業報告

研修視察に参加して

会員交流委員会 委員

岩崎建設(有) 岩崎 利行



平成24年5月28日から3日間、当青年部会の創立15周年記念研修視察として韓国・ソウルへと出かけてまいりました。

今回の研修は、地理的にも近く、古来より文化的なつながりも深い韓国の全国的な建設業者の組織である大韓建設協会にてご講演いただいたのち、意見交換会を行い韓国の建設業の現状について視察するというものでした。

初日は、広島空港から飛行機で仁川国際空港に向かうこととなりました。仁川国際空港はアジアのハブ空港を目指して開港しており、旅客ターミナル面積は約504,000㎡、コンコースは約166,000㎡あり、到着ロビーにたどり着くまでに迷子になってしまうのではないかと不安を感じるくらい、その広さを実感することができました。

翌日は、大韓建設協会に向かい、チェ・ヒョンジン代理に「建設業の現状について」御講演いただき、その後質疑応答を含めた意見交換となりました。

韓国の建設産業は総合建設業が11,400社、専門工事業者が38,100社で、市場規模は、ピーク時の約196兆ウォン（日本で約16兆円）から現在の約130兆ウォン（日本で約11兆円）と落ち込んでおり、縮小した市場の中で三年前から特にダンピングなどの問題が深刻化しているとのことでした。

大韓建設協会は全国的な団体であるため、韓国のサムスン物産、ベルギーのベシックス、アラブ首長国連邦アラブテックが共同で施工した、アラブ首長国連邦ドバイにあるブルジュ・ハリーフアなどの海外での国際的な巨大プロジェクトの受注の事例などの説明もありました。国としても国内建設企業の海外進出の支援に取り組む一方で、同時に地方の建設業者を守る為の対策にも取り組んでいるとの説明がありました。その後の質疑応答を含めた意見交換では、それぞれの国の公共工事の発注形態や入札制度への質問などがあり、制度の違いは若干ありましたが、我々建設業者がおかれている立場や現状は、国は違えどもとても近いものがあると感じました。

また、会員の親睦を深めるという点では、にぎやかなソウルの街で2泊3日という短い期間ではありましたが、会員相互の交流を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりますが、大韓建設協会の方々をはじめ、ご参加いただいた会員の皆様方にはご協力並びにお世話になり、大変ありがとうございました。



両国旗を前に厳粛に開催



大韓建設協会前

創立15周年記念事業報告

祝賀会を終えて

会員交流委員会 委員長
 (株)今岡興産 内藤 圭 司



私ども出雲地区建設業協会青年部会は、本年度を持ちまして創立15周年を迎えることが出来ました。

これを記念し、昨年11月13日(火)に料亭たわらを会場に親会より今岡副会長又、初代部長(山本恭則社長)をはじめ17名のOBの方々に参加していただき盛大に記念祝賀会を行う事が出来ました。

祝賀会の席では、OBの方々から色々なお話しを聞くことが出来ました。現会員は創立時からのメンバーがほとんど残っておらず、創立時の趣旨「次世代を担う若き建設人の資質向上」、「時代の過渡期における協会組織力の強化」を知っている人も少ないと思います。

若い会員は、OBの方々とお話しする機会も少なく、この祝賀会の場でこれからの青年部会の運営及び活動を行う上での、貴重な意見を聞かせていただく良い場になった事と思います。

先輩たちが情熱を傾けた「高い志」を私たち現会員は引継ぎ、これからの建設人に受継いでいかなければならない事を改めて痛感した次第であります。

梅野部会長を盛りたて、これからの事業を精力的に行い、諸先輩方が築き上げてこられた素晴らしい実績を汚す事なく、更なる飛躍を誓いたいと思います。

最後に一言 “OBの方々これからも現会員をかわいがってね”



OBの方々と一緒に万歳！万歳！



大変賑やかに楽しい集いでした

創立15周年記念事業報告

親睦ゴルフコンペに参加して

総務広報委員会 委員
（株）内藤組 内 藤 正 和



一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会は、2012年におかげさまで創立15周年を迎えることが出来ました。

これも、関係諸官庁の皆様のご指導と、地域の皆様のご協力、そして中筋会長をはじめとする親会の先輩諸兄の温かいご理解とご尽力の賜物と、感謝申し上げます。

この15周年の節目を記念して2012年11月13日（火）に、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会創立15周年記念事業として親睦ゴルフコンペをいづも大社カントリークラブにて開催させていただきました。青年部会の先輩諸兄へご案内をさせていただいたところ、総勢19名のご参加をいただき盛大に開催することが出来ました。ゴルフコンペ当日は雨・雷・強風と最悪のコンディションでしたが、皆さんと和気あいあいとした雰囲気の中でゴルフを楽しみ、珍プレー・好プレーで現会員と先輩諸兄との親睦をより深める良い事業になったと思っております。この悪天候の中で、栄えある優勝者は、梅野直宏 部長でした。

当日は、沢山の先輩諸兄の皆様にお越しいただき、会員一同、皆様からの期待と責任の大きさを改めて実感する場となりました。そして、今後更なる飛躍を互いに誓い合い、梅野直宏部長のもと出雲地区建設業協会青年部会の新たなスタートとなりました。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会がこれから20周年・30周年を迎えられるよう青年部会員一同、一致団結して事業を展開して参りますので、今後ともご支援・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



優勝者のナイスショット！



プレーの前にみんなで集合

初代部長からのメッセージ

「きやりーぱみゅぱみゅのころだ〜」

初代部長

(株)山本工務店 山本 恭 則



青年部会が設立されて、あっという間の15年、気が付けば己は還暦という齢に達した。振返れば、自分が青年部会の出雲と県の初代部長を務めさせて戴いたのは、正に「晴天の霹靂」であり、よくぞまあこんな浅学非才な人間に当時の仲間が付いて来てくれたものと改めて感謝の念で一杯である。

当時はとにかく飲んだ。そして遊んだ。(少しだけ勉強もした。)結果、素晴らしい生涯の仲間に出会うことが出来、己の足らざるところを補って余りある人生の宝も得ることが出来た。正に、この有用な仲間との出会いこそ、青年部会の大きな存在価値ではなからうか。

確かに、小生が部長であった時代と変わり、建設業界は一層厳しさを増して来ているが、若人本来の「青雲の志」は変わってはいないし、また変えるべきではない。

世情がどうであれ、「依って立つところ」は、我々が日本という国の諸人であるという確固たる信念である。昨年は奇しくも「古事記編纂千三百年」を迎え、我々は古の我が国の原像に思いを馳せる機会に出会うことが出来た。

稗田阿礼が洋々として誦習した「アメツチノ・・・」の言の葉は太安万侶が筆録し、江戸期に本居宣長が35年の歳月を掛け「古事記伝」を表して、やっと本来の意味を世人が知るところとなった。何と、天武天皇の御世から千年以上の歳月を費やしたのである。

そして今再び、我々の世代では到底解読することが出来ない現代の稗田阿礼の言の葉に悩まされている。「ちょー〇〇」「〇〇はやばいわ!」・・・、一体何なんだ!

本居宣長でも解読出来ない言の葉だらけで、お父さんには使いどころか、その意味さえも分からない。かてて加えて「きやりーぱみゅぱみゅ」という得体の知れない女の子のカリスマが居て(でもちょっと可愛い)、ほとんどのお父さんは、その名前を口遊むたびに舌を3回も噛んでしまって、口の中は血だらけになっている始末である。(どうでも良いことだが、正式な名前は「きやらいんちゃんぶろっぷきやりーぱみゅぱみゅ」だとか・・・舌を噛み過ぎて死んでしまうわい!)これが世に云う「世代間の相違」を如実に表している現象なのだろうか。

本居宣長は記している。「敷島のやまと心を人とわば朝日ににほふ山ざくら花」と。

小生が人生の師と仰いでいた小沢昭一氏が鬼籍に入られた。

戦後のわが国の発展の中で、懸命に血と汗を流し、今の「この国のカタチ」を造って来られた先達たるお父さんの悲喜交々を、軽妙な語り口で世に広めた現代の本居宣長である。

今思うに、我々は再び古の国を思い起こしながら、新たに近未来の国家観を明確に考える必要があるのではないだろうか。

「きやりーぱむぱむ・・・じゃなくきやりーぱみゅぱみゅ」の想念も必ず解読してやる!

青年部会の後輩諸君!君たちが明日の日本を創る牽引力たれ!

我々卒業生も微力ながら全力を挙げて応援を惜しまない。

全ては君たち自身のために、会社のために、そしてこの地域と国のために、心より邁進されんことを祈るばかりである。

今は昔みたいに立たないけれど、「依って立つところ」は変えてはならない、それがお父さんの「あしたのころだ〜」(続く)

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会青年部会

歴代部会長



初代部会長	山本恭則	【平成9年度】
第2代部会長	今岡裕統	【平成10～13年度】
第3代部会長	別所幸雄	【平成14・15年度】
第4代部会長	広戸修	【平成16・17年度】
第5代部会長	久文秀典	【平成18・19年度】
第6代部会長	山崎章弘	【平成20・21年度】
第7代部会長	山口弥	【平成22・23年度】

編集後記

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会も創立15周年を迎え記念事業も卒業生の方々のご参加を頂き盛大に行なうことが出来た。発足時より「厳しくなる」と言われ続けて15年、心理学者によると人間の記憶は良い事6、普通の事3、嫌な事1と言う構成らしい。この15年間青年部会の活動を通して、たくさんの先輩方又仲間と出会い、学び、時には遊び人間力を高めることが出来たのは「良い」思い出だが、昨年を代表する漢字になった“金”の話に至っては公共工事削減・コストダウン・燃料費高騰 etc 15年間「嫌」な思い出ばかりだったと思う。先日TVで米カリフォルニア州に世界一高い木（高さ約115m）がある針葉樹林の特集の中で、17年蟬^{せみ}の話聞いた。素数ゼミともいわれる17年蟬とは名前の通り成熟するまで16年間土の中で幼虫で過ごし17年目に一齐に羽化をする蟬である。何十億匹ともいわれる数の蟬が一齐に羽化するため都市ではとんでもない騒音問題が起こるが、針葉樹林にとっては森に生息する生物の食物となり、死骸は土壤の良質な堆肥となり、ありあまる恵みをあたえ、木を伐採すると年輪が17年に1度大きく成長していると言う。平成24年末、政権が民主党から自民党へ交代し約20兆円と言われる大型補正予算が打ち出され公共工事も久しぶりに削減から増額になると言う。17年に1度と言うのは長すぎる話だが建設業関係者にとって森に恵みを与える蟬のようになるのか（なってほしいと言うのが本音かな）、そのチャンスをつかむために日々の努力だけは怠るまいと思ったひと時でありました。

総務広報委員会 委員長 山崎育男